

競技場の歴史と大島鎌吉の功績

～郷土の歴史を知る～

金沢市弥生3丁目にある金沢市営陸上競技場は、大正14年10月31日に「皇太子殿下御成婚記念金澤市運動場」として造られ、令和7年に開場100周年を迎えます。

当時、このあたりは「石川郡富樫村地黄煎」と呼ばれる地域で、多くの地区からの競技場建設誘致活動の中から選定され現在の場所に建設されました。

戦後間もない昭和22年には「第2回国民体育大会(石川国体)」が開催され、全国から約1万3千人の選手が集い競い合いました。そして国体開催に際して「若い力」の歌と演技も作られ、80年近く経た現在でも金沢市民に受け継がれています。

この国体の誘致に尽力したのが、金沢市出身で陸上三段跳びのオリンピック選手だった大島鎌吉氏でした。大島氏は、国体誘致のほか競技場の改修にも関わり、第2回石川国体を契機に発展した戦後のスポーツ振興に大きく貢献しました。

この度、開場100周年という長き歴史に敬意を表し、郷土の競技場としてこれからも地域の方々に身近に感じていただくため、競技場の歴史や大島鎌吉氏の功績などの講演会を開催いたします。

10/31 金沢市営陸上競技場は「金沢市スポーツ遺産」に認定されます！



【開催日】 令和7年11月1日(土) 14:00～15:00

【定員】 60名

【会場】 弥生公民館(金沢市弥生1-29-13)

※駐車場がないため、公共交通機関又は近くのパーキングをご利用ください。

【参加費】 無料 ※申込不要(満席の場合はご容赦ください)



詳細は、ホームページから

若い力
動画視聴



講演

競技場の歴史と
第2回石川国体
金沢市スポーツ事業団職員

講演

大島鎌吉の功績
金沢ふるさと偉人館
学芸員 山岸遼太郎氏